埼玉県消防学校

第１４８期救急科を実施しました

［期　　間］　令和４年１０月１２日（水）から１１月３０日（水）まで

３４日間

［会　　場］　埼玉県消防学校

所属消防本部

［到達目標］　救急医学に関する基礎知識に基づき、応急処置時における的確な観察・判断能力、応急処置に必要な専門的技能を修得し、救急隊員として活動できる。

［教育対象］　救急業務に従事させようとする者（日赤救急員の有資格者、初任教育救急講習修了者又はこれらと同等以上の知識技能を有する者）

［修 了 者］　２７消防本部（局）９６名

平均年齢２５．３歳

川口市消防局　高橋　秀行　　消防士長　＊第１小隊総代

修了しての感想

１４８期救急科に入校し、座学・実技にて多くの知識・技術を学ぶことができ、本当に感謝しております。座学ではとても難しいものもありましたが、講師の方々の実際に出場した現場の話を交えていただき、とてもわかりやすいものとなりました。また、実技訓練では基本手技の習得、症状の悪化を防止するための救急活動要領、傷病者への接遇要領を学ぶことができ、救急隊員への基礎を作ることができました。ここからの応用力は現場経験であったり、自ら学んでいかなければならないところなので、傷病者の笑顔のために、常に向上心を持って日々勉強していきたいと思います。

後輩へのメッセージ

救急科では、職歴や年齢は関係ありません。なので変なプライドを捨て、１人の学生として仲間と一緒に学ぶことが大切だと思います。そしてたくさん失敗することが自分を成長させてくれます。

経験が豊富な教官・大切な仲間と過ごす１日１日を実りのあるものにして下さい。この救急に没頭できる約１ヵ月半は本当にあっという間に過ぎてしまいます。何度もしつこいですが、１日１日を大切に過ごしてください。

春日部市消防本部　樋口　大輔　消防士長　＊第２小隊総代

修了しての感想

まず何よりも、このコロナ禍において第１４８期救急科が全日程を無事に修了することができたことが大変嬉しく感じます。学生１人１人が、その一瞬も逃さぬよう前のめりになりながら教官の話に耳を傾け、そこにいる傷病者を助けるために何ができるのか、どんな処置をすべきか意見を出し合いました。時には訓練で失敗もしましたが、その度にお互いにフィードバックをし合い、精度を高め、自信に変えていきました。この１ヵ月間「救急」について集中して学び訓練に没頭できたことは、消防学校という恵まれた環境、そして埼玉県内各地から集まった素晴らしい講師・教官の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

後輩へのメッセージ

この救急科に入校するにあたり、１番大切なのは事前準備です。日々所属で得られ

る知見や救急に対しての興味関心を高めるだけでも各講義・訓練で学ぶことの深さが変わってきます。また、受け身ではなく自発的な気持ちで入校してください。入校する理由は学生により様々だと思いますが、「やらされている」という気持ちになった時点で、この１ヵ月が無意味なものになってしまいます。修了時、素晴らしい有意義な時間だったと胸を張って所属に戻れるよう、ぜひ自ら学び続ける姿勢を持ち続けてください。我々にとって救急とは毎日何件も発生することです。ですが、県民の皆さんにとっては一生に一度あるかないかの大きな出来事です。県民の皆さんの期待を裏切らないためにも、１人１人が真剣に臨んでよりよい救急科にしてください。

熊谷市消防本部　土田　裕太　消防士長　＊第１小隊副総代

修了しての感想

救急の知識技術において想像以上に没頭し、救急の面白みを感じられた期間となりました。私自身、救急に苦手意識があり、不安を持ちながらの入校となりましたが、いざ入校してみるとそこには各本部（局）から派遣で来ていただいている現役救命士からの温かいご指導、そしてすばらしい仲間や分隊にも恵まれ、毎日の講義、訓練が楽しいと思えるようにまで成長していました。中でも救急科中盤から行われる実技訓練においては、講義で学んだ知識を活かし、本気で１人の傷病者を救うぞという熱い気持ちを学生みんなが持って訓練ができていたと思います。約２ヵ月という救急科でしたが、あっという間に終わってしまい、これで１４８期のみんなと訓練ができなくなると思うと寂しい気持ちではありますが、充実した期間を過ごさせていただいたことに感謝しかありません。ご指導してくださった教官方、一緒に訓練してくれた学生の皆さん、本当にありがとうございました。

後輩へのメッセージ

座学、実技共に現役救命士が本気で指導してくれます。実際の現場活動の体験談などもあり、興味の湧く講義、訓練ばかりです。非常に内容の濃い期間を過ごせると思います。また入校するにあたり、不安を持つ方もいるとは思いますが、困った時、教官や学生が必ず手を差し伸べてくれるので安心してください。最後に、傷病者を救うという共通の目的のために、約２ヵ月間、全力で走り切ってもらえればと思います。

上尾市消防本部　中村　徳伸　消防士長　＊第２小隊副総代

修了しての感想

　私は入校するにあたり「現場に活かせる救急隊としての知識・技術の修得」を目標としていました。学校教官、支援教官そして仲間達のおかげで目標達成ではなくとも、入校前の救急に対する苦手意識、不安感は大きく払拭されました。また、第２小隊副総代も務めさせて頂き、私にとってとても貴重な経験となりました。私が約２ヵ月間、「救急」というモノに集中できたのも、副総代の任を全う出来たのも、学校教官、支援教官の準備、指導、優しさのおかげであり、仲間や家族の支えがあったからこそだと思います。無事に修了出来たことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

後輩へのメッセージ

　これから救急科に入校する人には様々な人がいると思います。救命士を志している人、救助隊になりたい人、すでに救助隊として仕事している人、警防隊のままでいい人、本部に行きたい人など、その考え方や思想は本当に様々です。その中できっと思う様にいかない事があると思います。ただ、そこで下を向くのでは無くしっかりと前を向いて、横にいる仲間達に、準備や指導をしてくださる学校教官、支援教官に感謝の気持ちを持って臨んでみてください。約２ヵ月間皆さんの気持ち１つ、取り組む姿勢１つで救急科というものがより良いものになっていくと思います。また、皆さんにとってそのような救急科となることを願っています。

救急科の教育訓練の様子

外傷訓練

傷病者搬出訓練

産婦人科救急訓練

異物除去訓練

車外救出訓練

内因観察訓練